

平成29年度 輪之内町立大藪小学校 学校評価

学校の教育目標	よく考え 励まし合って やりぬく子 ◎よく考える子 ◎励まし合う子 ◎やりぬく子
経営の重点	子どもに「よりよく生きる力」と「自信」をつける学校 ◎明るいあいさつができる子 ◎仲間と共に支え合って乗り越える子 ◎ふるさとを愛し、誇りに思う子 ◎一人一人を大切に、深い子ども理解を基に実践する教職員

町の重点	評価の観点	評価	今年度の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1◎ <特色ある学校>幼保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の子ども生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	A	○情報モラルについて、中学生がリードする取組をしたり、主幹教諭や中学生が6年生に向けて話をするなど、連携を図ることができた。 ○運動会参加や持久走大会参観や1年生との交流授業など、こども園児と交流することができた。 ○こども園との交流授業や懇談を行うことで、互いの生活や子どもの様子を交流することができた。	□こども園児が小学校へ訪れる交流を継続する。さらに、教職員の参観や懇談の内容や仕方を工夫し、互いの教育や生活について理解を図ることで、こども園児がスムーズに学校生活に慣れたり、教職員が互いに学び合ったりすることができるようにする。	・学校の教育目標に向かって、教職員や保護者、地域が協力して、組織的に取り組んでいる。「学校が楽しい」と感じている子どもが多いことになっている。 ・「ふれあい活動」は、中学生が地域の中で生きることにつながっている。 ・こども園との交流が、定着してきた。さらに意図的、計画的に進め、互いのよさを学び合う。 ・中学生が小学校を訪問しての活動は、互いにとってよい刺激となる。さらに、いろいろな面で中学校との連携を図り、指導に生かすようにする。 ・教材などの共有化は、勤務の時間短縮とともに、授業力の向上につながる。組織的に進めるとよい。 ・事務の効率化や内容の見直しは、教育委員会とともに、進めていく必要がある。
	2 <開かれた学校>学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や子ども生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	B	○学校だよりや学年通信を定期的に発行し、保護者に学校の方針や様子を伝えた。 ○校区ふれあい活動等で保護者や地域の方、中学生と共に活動した。 ○コミュニティスクール開設のための準備を進めた。	□ホームページの更新を行い、分かりやすく親しみやすくする。 □学校便りや学年便り、学校の方針や様子を伝えることを継続する。 □コミュニティスクールについての情報をわかりやすく伝えるようにする。	
	3 <資質・指導力の向上>教職員資質や指導力の向上のため、授業研究とともに、コンプライアンスについての校内研修を組織的・計画的に実施する。	A	○研究授業や現職研修が計画的に仕組み、実践に生かした。	□コンプライアンスや今日的な課題についての校内研修を計画的に行うようにする。 □聞くだけの研修ではなく、考える研修となるよう工夫する。	
	4 <危機管理>子ども生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	A	○毎月の安全点検で設備を確認し、安全・安心な環境づくりに努めた。 ○登下校時の安全について、見守り隊の方の協力や保護者との情報共有などを行った。危険な行動については、速やかに指導した。	□朝の会や帰りの会、教科指導の場などでも、日常的に自分の命は自分で守ることについて、子どもに伝えたり考えさせたりする。 □最悪の事態を想定し、迅速に対応する教職員の意識を高める。	
	5◎ <勤務の適正化>校務分掌や運営組織を見直すなどして十分に業務の効率化を図り、教職員の子ども生徒に関する時間を確保するとともに、教職員自身が心身共に健康で、やりがいをもって教育活動に取り組めるよう、学校経営の充実を図る。	B	○水曜日は、18時退校に努めている。 ○教職員の共通理解事項として、毎年、同じ内容で印刷、配布している文書をファイルにまとめた。 ○連絡事項を掲示板を活用して伝えることで、打ち合わせなどの時間の短縮に努めた。	□教材の整理や保存の仕方を工夫して、共有化を図る。	
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	6 <校内研修>校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や子ども生徒の教育的ニーズに対応する確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	A	○研修を通して、研究内容への理解を深めたり、自分がすべきことを明確にしたりすることができた。 ○主題研究の内容にそって、計画的に校内研修を進めることができた。 ○学年部で話し合いがもたれ、進む方向を確認し、授業改善につなげることができた。	□研究の方向を共通理解したり、お互いの実践について学び合ったりする場として、来年度も校内研修を実施する。 □全校研・部研を計画的に実施する。研究授業を行わない先生は、略案を作成し、公開授業を行う。	・教員が、少人数でディスカッションをしながらの研修は、一人一人の研修への意識を高めることにつながる。継続することが大切である。
	7 <個人研修>経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	B	○校内研修で明確にした課題を、自分の学級で実践しようとする取り組みができた。 ○若手研修を定期的に行ったことで、力量の向上につながった。 ○学年部実践交流会によって、日常の授業改善につながった。 ○研究授業の成果を教員で共有して、授業に生かすことができた。	□一人一人が、自分の課題をもち、それにあつた研修を進める。 □センター研修や他校の公表会などにも、積極的・計画的に参加する。	
	8◎ <情報研修>分かる授業のためのICTの効果的な活用及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	B	○情報モラルに関する研修で、情報モラルについての正しい知識を得ることができた。	□情報モラルに関する研修は、夏休み中に行うなど、実施時期を検討する。 □授業での効果的な活用の仕方を研修し、授業に生かす。	
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	9 <基礎基本の定着>指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	B	○算数では、仲間との対話から理解をしたり考えを深めたりする授業改善を行った。 ○算数以外の授業でも、ペア交流の場面を設定するなど、思考力・判断力・表現力を育てるように努めた。 ○漢字・計算テストや検定の実施により、基礎的・基本的な力が付いてきている。	□授業の中で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる時間を確保し、見届けをする。 □基礎・基本を重視しながら、さらに、思考力や表現力を育てる授業を工夫改善する。	・「学習のスタンダード」でめざす姿が明確になっている。「聞く・話す・書く」は、授業が成立するために、大切なことである。さらに、「話し合う」「聞き合う」授業を大切にしている。 ・授業内容の習得について、授業の終末に教師と子どもの双方で、確実に見届けようとする。 ・漢字や計算の確かめを、毎週位置付けて行っていることは、基礎・基本の定着を図るために大切なことである。 ・授業での小集団での交流は、一人一人の子どもが思考力や表現力や学級を学習集団として高めることにつながる。
	10 <個に応じた指導>指導内容の系統性、教科間・学校段階間のつながりを踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	B	○個に応じた指導について、学年で取り組むことができた。	□授業の中で、習熟の時間の充実を図る。特に単元末の習熟の時間のもち方について、習熟度別に指導するなど工夫をする。 □漢字・計算検定に意欲的に取り組めるよう、個に応じた働きかけをする。	
	11 <学習集団づくり>互いの見方・考え方から学び合うことを通じて、質の高い学びを実現する学習集団を育成するとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	B	○小集団での交流や話し合いを意図的に位置付けて、仲間との対話から学び合う授業をめざした。 ○学習にかかわる月目標や算数の授業にかかわる提案など、全校が同じ課題に向かって、学習指導を行うことで、子どもに望ましい学習習慣を身に付けさせることに努めた。	□相手の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、仲間の同意を得ながら話したりすることなど、話し方や聞き方の指導を徹底していく。 □意図的にペア交流や小集団交流を位置づけ、段階的・具体的に指導する。ホワイトボードの活用を検討する。 □「学びのスタンダード」をもとに、学習規律の定着を図る。	
【道徳教育】 自己を見つめ、力と他を思いやる心を育てる	12◎ <全教育活動を通じた道徳教育>道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる指導体制や指導計画を工夫改善する。	B	○教科化への移行期間として研修を行い、次年度の準備をした。	□新しい教科書に合わせて、夏休み終了をめどに指導計画を作成する。 □評価について研修を行い、方法や表し方を明確にする。	・道徳の授業の基本的な授業過程が定着している。資料の価値を押しつけるのではなく、心揺さぶられる道徳の授業でありたい。 ・道徳の教科化については、授業の展開や評価のあり方などについて、教員が研修をしながら、授業改善を進める必要がある。 ・道徳教育は、道徳の授業だけでなく、いろいろな場で、意図的に行うことで、道徳性を高めるようにする。 ・あいさつができる子どもを、地域や学校で認め価値付けることで、あいさつができる子どもを増やしていくことが大切である。
	13 <道徳の時間>道徳的価値の理解を自分との関わりで考えるとともに、多様な考え方や感じ方に接して物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に生き方についての考えを深める道徳の時間(特別の教科道徳)を充実する。	B	○行事や学級の実態を踏まえて道徳を実施し、日常生活の中で実践しようとする姿が認められた。 ○教科化に向けて、道徳の授業においても話し合い活動や対話を大切にした実践ができた。 ○「自分ならどう思うだろう」「どう思うだろう」と問いかけ、仲間と意見を交流することができた。 ○道徳的価値を深める発問に努め、問い返しを多くすることができた。	□これまでの研修をもとに、1時間の授業の流れについて再度確認する。また、実践した内容を学年で交流し、指導過程や指導方法について学び合う。	
	14◎ <心を育む体験活動>ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	B	○委員会活動のキャンペーン活動を通じて、あいさつや掃除に対する意識が高まりつつある。	□あいさつ、トイレのスリッパそろえ、ろうか掃除などのボランティア活動を継続、発展させる。 □地域での体験活動を心の教育の場とする指導を充実する。	
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	15 <指導計画・指導体制>小学校中・高学年、高学年と中学校との接続を踏まえた指導計画を工夫改善し、指導体制を整える。	A	○英語推進教師を中心とした職員研修を通して、授業の進め方を見直し、指導に生かすことができた。	□新しい教科書や指導書の読み合わせ(指導内容の確認)を研修で行う。	・子どもは楽しく英語活動に取り組んでいる。授業時間が増えることもあり、子どもにどんな力をつけるかが大切である。 ・ALTと担任との役割を明確にして、授業の流れを統一したり、学習活動を工夫したりすることが大切である。
	16 <指導過程>積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	A	○授業の展開を統一し、ゲーム的な活動を取り入れることで、子どもは楽しく英語に親しんでいる。 ○ALTとの打ち合わせを行い、担任とALTが連携した授業に努めた。	□中学校とのつながりや考え、「自分のことや身近で簡単な事柄」について話せるようにしていく。 □教科書のねらいを明確にし、教科書や指導書に沿った授業展開をする。 □担任とALTのそれぞれの役割を明確にする。	
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	17◎ <全体計画・指導計画>小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、学習のねらいや内容、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	B	○計画的に地域に出かけたり、地域の方を講師として招いたりして、話を聴いたり見学や体験活動をした。 ○年間指導計画を通して、一貫したねらいをもち、課題意識が連続発展する授業を行うことができた。 ○学年に応じた題材が定着しており、見直しをもって体験活動を行うことができた。	□国語との学習の関連を図り、多様な表現の仕方を学年に応じて、計画的に指導する。 □新たな講師の方や見学場所などをみつけ、地域から学ぶことを、さらに充実する。	・子どもが地域に目を向け、足を運ぶ機会を大切にすることで、地域とのつながりも深めることができる。さらなる人材や学習材の発掘に努める。 ・ふるさと学習が、計画的に進められ、「ふるさと学習発表会」で、下学年の子どもが参観することで、双方の子どもが意欲を高め、活動を継続することにつながっている。
	18 <探究的な学習>身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定した探究活動や指導・援助を充実する。	B	○地域の方を講師として招き、大藪地区の話聞いたことで、子どもが、自分の課題に対して探求できる場を設定し、深めることができた。	□下学年や保護者への発表の場を設定することで、体験活動や言語活動の充実を図る。 □子どもが、自ら調べたり生活に生かしたりすることができる探求活動を工夫する。	

町の重点	評価の観点	評価	今年度の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	19◎ <指導と評価>子ども生徒の自発的、自主的な活動(いじめ問題への取組等)を展開し、一人一人の子ども生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を發揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	B	○子どもは、学級の係活動に責任をもって取り組み、一人一人がそれぞれよさを發揮しながら自発的、自主的な活動ができつつある。 ○子どもは、委員会活動の当番やキャンペーン活動等に意欲的に取り組んだ。	□評価の仕方を工夫するなど取組の成果を明らかにして、子どもの自信や充実感、次の活動への意欲を高める。 □子どもの問題意識を高め、さらに子どもの自発的な活動を促す指導を工夫する。	・「わかたけ活動」は、上級生と下級生の交流の場となり、思いやりの気持ちを育てることもつながる。 ・子ども自身に学校や学級の課題をとらえ、解決していける力をつける指導が大切である。 ・QU検査を有効に活用することで、一人一人の理解や学級集団の高まりにつながるようにする。 ・「ありがとうの会」は、伝統を引き継ぐ気持や6年生に感謝の気持ちにあふれている。保護者の参観も多かったが、さらに増えるとよい。
	20◎ <学級経営>学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	B	○QU検査を年に2回行うことにより、子ども理解を深め、意図的に指導することができた。 ○行事や子ども会のキャンペーンなどの取組を通して、学級集団としての意識が高まった。 ○子どもの問題意識を生かしたキャンペーンを行い、声をかけ合って解決することができた。	□学級で意見を出し合い、話し合いをすることで、集団としての意識を高めていく。 □QU検査の見方、生かし方などの研修を行い、子どもの高まりや学級のまとまりにつなげるようにする。	
【生徒指導】 共感的な理解を徹底し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる	21 <生徒指導(教育相談)体制>不登校や問題行動(いじめ、暴力行為、薬物乱用、性非行、インターネットを利用した誹謗中傷や違法行為等)については、全職員が危機意識をもち、早期発見・早期対応はもとより未然防止に重点的に取り組み、家庭や地域・関係諸機関等との情報共有と行動連携を強化し、組織的に対応する。	A	○週1回生徒指導交流を行っていることで、全校で情報共有ができていた。 ○起こりうる問題を未然に予測し、職員で情報を共有したり、共通理解のもと指導にあたったりすることができた。 ○問題行動に対して、素早く情報共有をして対応したり指導したりして、解決に導くことができた。	□心のアンケートによる情報収集と早期対応、他職員との連携を今後も大切にしている。 □無記名アンケートに表れている子どもの思いを大切に指導や学級経営を行う。	
	22 <学年・学級経営>一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、子ども生徒の関わり合いを大切にしながら、学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	B	○係活動や当番活動を充実させたり輝き見つけなどでよさを広げることや存在感や所属感を味わせた。 ○言葉づかいのキャンペーンで「あたたかい言葉」やあいさつをしあうことが増えた。	□子どもが互いに自分や互いのよさをみつけ、伝え合う場や方法をさらに工夫する。 □個のよさを教師がみつけ、広めることを大切にしている。	・子どもの課題や問題行動などについて、複数の教職員が関わっていることは、一人一人が大切にされていることが表れている。 ・心のアンケートが毎月実施され、その結果を共有し、その都度でいねいに指導されていることが、いじめの早期発見につながっている。 ・無記名アンケートには、心のアンケートには表れないこともあるので継続する。
	23◎ <生命尊重・倫理観・規範意識>全教育活動を通して、一人一人が自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を向上させることができるよう指導を徹底する。	B	○「ひびきあい集会」を実施し、自分も相手も大切にしようという意識を高めた。 ○社会見学や校外学習、地域でのふるさと学習などの場で、交通ルールや公共のマナー、話の聞き方、お礼の挨拶などを指導した。	□校舎内や運動場での安全な生活について、学年に応じて具体的に指導する。 □安全な登下校について、くり返し指導すると共に、学校周辺の巡回を地域の方や保護者と連携して行う。	
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	24 <勤労観・職業観>望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動(職場体験、係活動、清掃、奉仕活動など)を位置づけることと、事前や事後の指導を充実する。	B	○福祉施設での活動を通して、そこで働く人の仕事内容を理解したり、働くことのよさを学んだりすることができた。 ○係活動を通して学級の一人一人として働く気持ちを育てることができた。 ○掃除、係活動を通して、働くことや役に立つことの大切さを知ることができた。	□係活動や当番活動、委員会活動、ボランティア活動など、働くことで充実感や達成感もてる指導をする。 □キャリア教育についての研修を行う。	・6年生が地域の高齢者施設を訪問して、活動することが、勤労観や職業観を育てることにつながっている。 ・日常的な係活動や委員会活動や清掃活動などを、勤労観の育成につなげる。
	25◎ <ガイダンス>一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。(中)				
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活態度を育てる	26 <健康・安全・食>子ども生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	A	○栄養教諭と協力した食育の授業や栄養教諭の給食時の訪問などで、食に対する子どもの意識を高めることができた。 ○長期休みでリズムが崩れてしまわないようチェック表を作り、正しい生活習慣で過ごせるようにした。	□手洗い、うがいの励行や体温に合わせた服の着脱のなど、声をかけていく。 □給食時の約束(手洗い・消毒・マスクの着用等)を徹底する。 □全員が休み時間に外に出て遊べるよう取り組んでいく。	・「食育」を大切に、栄養教諭と連携して、各学年とも計画的に指導されていることで、より効果がある。 ・子どものアレルギーへの対応について、保護者と連携し、複数のチェックで、ていねいに対応・指導されている。 ・体力は「生きる力」に直結している。朝マラソンを年間を通して行うことが、子どもたちの意識を高めている。さらに、体育の授業や休み時間などの子どもたちの遊びに目を向け、改善することで、体力の向上につながる。
	27 <運動推進>子ども生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	A	○朝マラソンでは、目標をもって、意欲的に走る子どもが多い。 ○朝マラソン、なわとび、休み時間の遊び等、めあてをもって進んで体力づくりに励んでいる。	□なかよしタイムには必ず外に出るよう、日常的に呼びかけをしたり、委員会でキャンペーンを行ったりする。 □マラソンカードを活用して、子どもがさらに意欲的に朝マラソンに取り組めるようにする。 □子どもが進んで運動に取り組む、技能を高める体育の授業を工夫する。	
	28 <未然防止>子ども生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を發揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	B	○アレルギーや健康上課題のある子どもについて、複数の教職員で確かめ、配慮した。 ○アレルギーチェックを毎日行ったり、毎月の安全点検などを確実に実施し、子どもの健康・安全に努めた。	□想定外の行動によるけがなどがなく、普段から安全な過ごし方について指導し、子どもの安全に対する意識を高める。 □アレルギーや疾患に対する確かめや対応は、複数の教職員で行うことを継続する。	
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立した社会参加の基盤となる力を育てる	29◎ <校内支援体制>特別支援教育コーディネーターを中心として、こども園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で子ども生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の一層の充実に努める。	B	○特別な支援を要する子どもについて、子ども理解や支援の方法などについて研修をしたり情報交流をしたりして、適切な支援を探った。 ○特別な支援を要する子どもについて、複数の教職員が連携・協力して支援した。	□ケース会議や生徒指導交流の場で、情報交流をして、一人一人に教育的ニーズなどの理解を図り、配慮することや支援の仕方を共有する。	
	30 <個別の支援>本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を發揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	B	○保護者との懇談を複数の教員で行い、子どもの姿や子どもの困っていること、支援の方法など合意形成に努めた。 ○個別の指導計画の作成により、段階的にどんな力を付けていこうかを明確にもって指導することができた。 ○通級指導教室の担任と情報を共有するなどして、指導に生かした。	□保護者と指導計画を共有し、成果や次の目標を明らかにし、進級時や進学時に確実に引き継ぎを行うことを継続する。 □通常学級での支援態勢や通級指導教室での指導など特別支援教育について保護者や子どもにわかりやすく説明する。	・特別支援学級では、一人一人に寄り添って、ていねいに指導されている。子どもにつけたい力を明確にして、一人一人の実態に応じた指導が大切である。 ・特別支援学級と通常学級との交流が、子どもの育ちやよりよい人間関係を育むことにつながる。 ・発達障がいへの理解や指導については、今後さらに研修を重ねる必要がある。
	31 <交流及び共同学習>特別支援学級等と通常の学級の子ども生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的に、社会的や豊かな人間性を育むことができるよう指導を充実する。	B	○交流授業を子どもの実態に合わせて、計画的に行った。学級担任と特別支援学級の担任が、情報を交流したり協力して支援したりして、指導に生かした。 ○特別支援学校に在籍する子どもと居住地交流を行った。	□交流学級での学習内容や支援の仕方などについて、さらに、担任同士での協力や連携を密にする。 □特別支援学校に在籍する子どもとの居住地交流を継続、発展させる。	
【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	32◎ <望ましい人間関係>互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	B	○どの学級でも、ソーシャルスキルトレーニングを「朝の活動」の時間帯に実施した。 ○子ども会が中心となって、言葉遣いについての取り組みを行った。	□計画的、継続的にソーシャルスキルトレーニングを行い、その方法や成果を交流する。 □場に応じた言葉遣いや相手の気持ちを考えた言動について考えさせ、全校で取り組む。	・子どもからのSOSは、年度替わりや夏休み明けに多い。 ・「ひびきあいの日」の取組や、子ども会の取組が、子どもの心に響き、行動につながっている。
	33 <いじめ・差別の根絶>いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	A	○ひびきあい集会やキャンペーン活動を通して、いじめは許されないことや仲間を大切にすることの大切さを考えさせることができた。 ○心のアンケートや無記名アンケートで得た情報をもとに、子どもから話を聞き、いじめなどに対して指導した。 ○心のアンケート等を通して、いじめ等の早期発見・対応に努めた。	□人権週間だけでなく、「～さん」と呼び合うことを徹底したり、相手を傷つける言動について考えさせたりする。 □引き続き、アンケートを指導に生かす。	・「いじめ」への早期発見・早期指導が、組織的に協力してていねいに行われている。今後も、継続する。 ・ソーシャルスキルトレーニングを継続する。
【情報教育・図書館教育】 子ども生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる。日常的に読書に親しみ、教養・感性を高めようとする態度	34◎ <情報活用能力>情報活用能力における子ども生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	C	○総合的な学習の時間等で、パソコンを活用して、調べ学習をしたり、学習したことをまとめたりすることができた。	□情報活用能力を育てるために、単元末や学期末のまとめレポート作成の活動を取り入れるなどする。 □情報教育のための外部講師を招いての研修の実施を検討する。	・デジタル教科書が活用されている。さらに、効果的な情報活用や授業への取り入れ方を研修し、交流する機会をもつとよい。 ・情報モラルについて、小中が連携して、「情報モラル宣言」として、子ども生徒から発信されていることがすばらしい。小学校の早い時期からの指導が大切であると共に、保護者の意識を高めることが必要である。 ・図書室が明るくなり、本の配置や掲示などが工夫されている。さらに、読書に親しめる取り組みを進める。
	35 <情報モラル>情報モラル(SNSを介したネットトラブル等)について、意図的・効果的な指導を行う。	A	○情報モラル週間には、学級みんなでネットトラブルについて、具体例を挙げながら考えたり、対策を話し合ったりした。 ○学期ごとに計画的に情報モラル習慣が位置づいていることで、子どもの情報モラルに対する意識が高まっている。	□情報モラル宣言を家庭へ周知徹底していくために、学級懇談会や学年懇談会で話題にしていこう。全校的にも総会や地区懇談会の場で話題にしていこう。	
	36◎ <図書館教育>学校図書館を利用しやすく整備し、図書の利用や読書活動の推進に取り組む。	A	○図書室の改修や本や机の配置を工夫したことで、利用しやすい環境となった。 ○並行読書で図書館の本を利用した。 ○各学年の「必読図書」を選定し、読み切ることを指導した。	□教科の学習の中での図書室の本を活用を進める。 □子どもがたくさんの本やいろいろな分野の本を読むことができる指導や取組を工夫する。	

町の重点	評価の観点	評価	今年度の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価	
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる	37	<ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	A	<input type="checkbox"/> 地域人材を活用し、地域について学習することができた。 <input type="checkbox"/> 大学の先生と共に学ぶことができ、有意義な体験ができた。 <input type="checkbox"/> 輪之内の水害や水防について、その場に行って見学したり話を聞いたりして学ぶことができた。	<input type="checkbox"/> 今後も地域人材の講話を聞く機会をもつ。 <input type="checkbox"/> コミュニティスクールとなるため、より地域とのつながりができるため、地域人材の受け入れ体制や効果的な活用について考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが地域に目を向け、足を運ぶ機会を大切にすることで、地域とのつながりも深めることができる。さらなる人材や学習材の発掘に努める。</li> <li>・総合的な学習の時間で、学年に応じた課題で、ふるさと学習に取り組んでいることが、子どものふるさとの理解や愛する心につながる。</li> </ul>
	38	<国際交流>国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	B	<input type="checkbox"/> 外国語活動の時間にALTからの「トビックス」を聞いたり、授業以外でもさまざまな会話をしたりすることを通して、外国の生活や文化について知ることができた。	<input type="checkbox"/> 外国語の時数が増えることもあり、よりALTと触れ合えるようになるので、英会話を楽しみながら異文化の理解を深められるようにする。	
【防災教育】自らの命を守るための防災意識の向上を図る	39	<防災教育推進>学校防災マニュアル等について、学校や地域社会の実態を踏まえた改善を行うとともに、マニュアルに基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進する。	B	<input type="checkbox"/> いろいろなケースを想定して「命を守る訓練」を実施したことで、子どもに「自分の命は自分で守る」という意識が高まっている。	<input type="checkbox"/> 「命を守る訓練」の充実(場・想定・時間などの工夫)とともに、「自分の命は、自分で守ること」をいろいろな機会に、とりあげ指導する。 <input type="checkbox"/> 輪之内町の防災についての現状や取組について取り上げ、学年に応じた理解を図るようにする。 <input type="checkbox"/> 避難所運営について、組織の整備や方法などについて、行政や地域との連携をして、教職員の理解を図るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命を守る訓練」を工夫してくり返し行うことが、子どもの意識や行動力を高めることにつながる。</li> <li>・備蓄庫も校内に設置され、教職員も子どもも町で取り組む防災にも目を向ける必要がある。</li> </ul>
【家庭学習の充実】自分の力で学習ができる子どもを育てる	40	<家庭学習習慣>家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	B	<input type="checkbox"/> 家庭学習のポスター、手引き、パワーアップ週間が定着してきた。	<input type="checkbox"/> 家庭学習パワーアップ週間の取り組み方を改善する。 <input type="checkbox"/> 家庭学習に取り組めない子どもについては、保護者と連絡を取り合い、協力して働き掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「パワーアップ週間」や「手引き」など学校全体で、家庭学習について、取り組んでいる。さらに、個への働きかけを工夫する。</li> <li>・家庭学習の充実について、保護者にも積極的に協力を求める必要がある。</li> </ul>